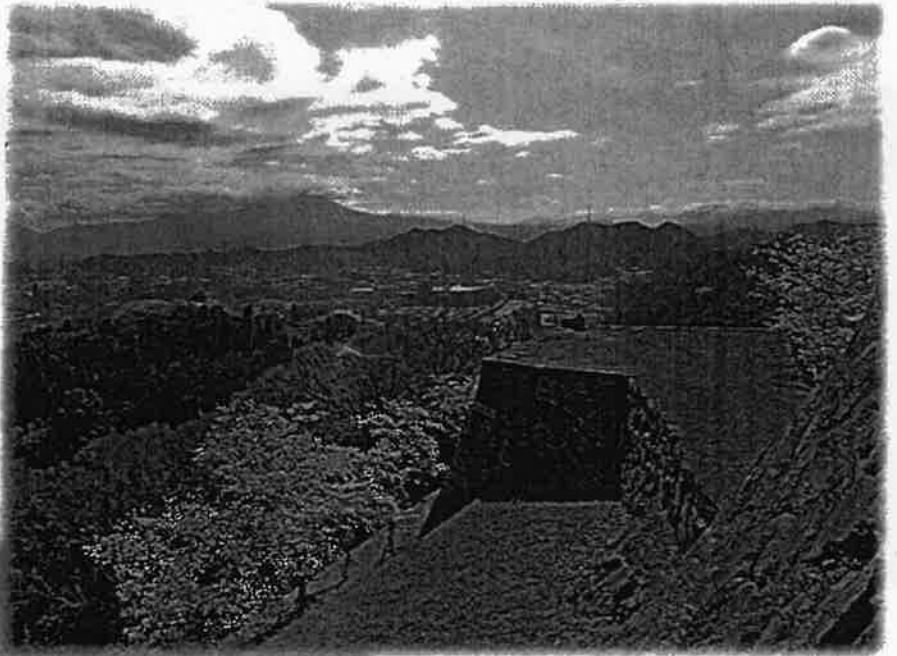


米子城フォーラム

城メグリストとお城博士の 米子城わくわく講座

フォーラム資料



平成28年 10月1日(土)

主催 米子市・米子市教育委員会
共催 一般財団法人 米子市文化財団

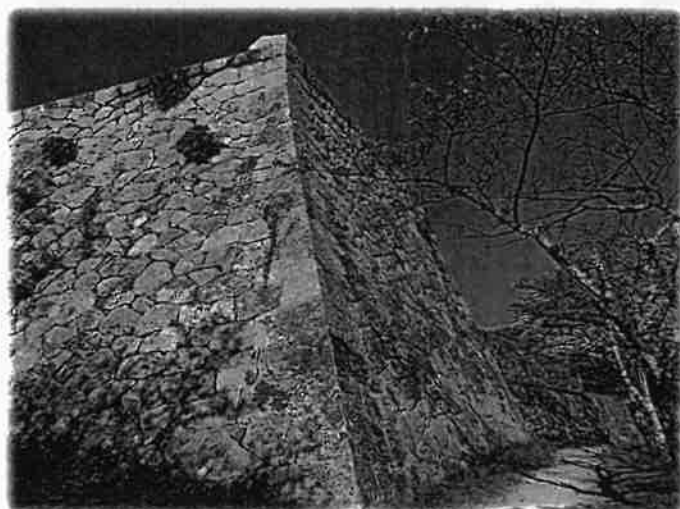




天守台と四重櫓台



天守台



四重櫓台



登城路から見上げる本丸

開催要綱

期 日 平成28年10月1日（土）
場 所 ふれあいの里 大会議室

第一部

講 演 13:10~15:00

- 「海を臨む天空の城、米子城」
講 師: 中井 均 氏 (滋賀県立大学教授)
- 「3番勝負！ここがすごいぞ米子城」
講 師: 萩原さちこ 氏 (城郭ライター)

第二部

トークセッション 15:15~16:30

中井 均 × 萩原さちこ
「お城はワンダーランド！」

目 次

海を臨む天空の城、米子城・	中井 均 (2)
3 番勝負！ここがすごいぞ米子城・	萩原さちこ (12)
米子市街地図・	(14)
米子市街地航空写真・	(15)
米子城縄張図・米子城本丸・	(16)
米子城関連年表・	(17)
かるちゃんのちょこっとお城の用語解説・	(18)

登壇者のプロフィール

な か い ひとし
中井 均：滋賀県立大学 人間文化学部地域文化学科 教授

龍谷大学文学部史学科卒業。

財団法人滋賀県文化財保護協会を経て、米原町教育委員会勤務。

平成20(2008)年に米原市教育委員会を退職。NPO 法人城郭遺産による街づくり協議会理事長として、全国のまちづくりにも関わる。長浜市長浜城歴史博物館 館長、滋賀県立大学 人間文化学部 地域文化学科 准教授を歴任。

『日本の城』や『近江の山城ベスト50を歩く』、『城館調査の手引き』など多数の城郭研究本の著者。

専門は日本考古学で、日本各地の城郭の発掘調査・整備の委員なども務める。

はぎわら
萩原さちこ：城郭ライター・編集者

青山学院大学卒業。小学2年生で城に魅せられる。日本人の知恵、文化、伝統、美意識、歴史のすべてが詰まった日本の宝に虜になり、城めぐりがライフワークに。

印刷会社、出版社、制作会社、広告代理店等の勤務を経て独立。

現在はフリーライターとして執筆業を中心にテレビ・ラジオなどのメディア出演、イベント出演、講演、講座、ガイドのほか、お城イベントプロジェクト「城フェス」の実行委員長もこなす。

著書に『わくわく城めぐり～ビギナーも楽しめるく城旅』34～(山と溪谷社)、『戦国大名の城を読む 築城・攻城・籠城』(SB新書)、『日本100名城めぐりの旅 7つの「城の楽しみ方」でお城がもっと好きになる』(学研パブリッシング)、『「現存」12天守めぐりの旅 歴史ある国宝・重文のお城をたずねる』(学研パブリッシング)、『お城へ行こう!』(岩波ジュニア新書)、『今日から歩ける 超入門 山城へGO!』(西股総生氏との共著/学研パブリッシング)、『図説・戦う城の科学 古代山城から近世城郭まで軍事要塞たる城の構造と攻防のすべて』(サイエンス・アイ新書)、ほか、新聞や雑誌、WEBサイトでの連載、共著多数。

公益財団法人日本城郭協会学術委員会学術委員、文化財石垣保存技術協議会会員、

日本城郭検定公式サポーター。お城の魅力をわかりやすく楽しく伝える、がモットー。

海を臨む天空の城、米子城

中井 均(滋賀県立大学)

◆はじめに

- ・米子城の魅力 ⇒ 海を臨む山城【山陰随一の名城】
- ・山上と山下に残された壮大な石垣 ⇒ 明らかとなった登り石垣【文禄・慶長の役に朝鮮半島に築かれた倭城の影響】

◆海への進出 -月山富田城と米子城-

- ・吉川広家 ⇒ 豊臣秀吉により天正19年(1591)に出雲3郡、伯耆3郡、安芸1郡、隠岐1国14万石の大名となる【月山富田城を居城とする】
- ・月山富田城 ⇒ 山頂部(本丸、二の丸)の石垣【天正19年の広家による構築】
山麓部(山中御殿、千畳平)の石垣【慶長初年の広家による構築】
※新宮谷で滴水瓦が出土(広家は文禄・慶長役に参戦渡海)
- ・米子築城 ⇒ 天正19年に広家により築城【伯耆3郡支配の核】
さらに朝鮮出兵を睨んだ海への進出 ⇒ 土佐の浦戸城(長宗我部氏)、肥後の麦島城(小西氏)【総力戦としての朝鮮出兵】
- ・米子城で発見された登り石垣 ⇒ 文禄・慶長の役よりの帰国後に増築されたものか【慶長3年直後の軍事的緊張段階に構えられたものか】
- ・米子城の石垣
 - ①天正19年の石垣(吉川広家) ⇒ 飯山の石垣、八幡台の石垣【野面積み】
 - ②慶長3年頃の石垣(吉川広家) ⇒ 天守台、内膳丸、水の手御門下の曲輪、登り石垣【矢穴技法と打込接】
※毛利領の東端国境警備の強化(月山富田城、米子城、鬼身城)
 - ③関ヶ原合戦後から元和元年頃の石垣(中村一忠、加藤貞泰) ⇒ 枡形、二の丸石垣、三の丸石垣【打込接】
 - ④寛永期の石垣(池田光政[由之、由成])
 - ⑤寛永以降の石垣(荒尾氏)
 - ⑥幕末(嘉永5年:1852) ⇒ 四重櫓台【切石による谷積み(落とし積み)】

◆毛利氏の海への進出

広島城

- ・安芸毛利氏の居城 ⇒ 吉田郡山城【元就の居城は毛利氏の聖地として継承】
- ・天正17年(1589)に毛利輝元は広島に築城を開始し本城を移す ⇒ 太田川のデ

ルタ地帯に選地【縄張りは秀吉によって築かれた聚楽第に酷似】

毛利氏によって希求されたものではなく、秀吉による命令による築城か ⇒ 朝鮮出兵を睨んだ海への進出【郡山城も聖地として存続】

三原城

- ・小早川氏の居城 ⇒ 高山城(古高山城→新高山城)
- ・永禄 10 年(1567)、小早川隆景による三原要害の築城 ⇒ 小早川水軍の拠点としての海への進出

天正 8～10 年に隆景は本拠を新高山城より三原城に移す

天正 15 年に隆景は筑前へ移封されるが、文禄 4 年(1595)には筑前を養子秀秋に譲り、三原城に戻り隠居城として修築する ⇒ 新高山城も廃城になったのではなく存続していたと考えられる

毛利氏(吉川氏・小早川氏)の二城体制

- ・米子城(海の城)⇔月山富田城(山の城)、広島城(海の城)⇔郡山城(山の城)、三原城(海の城)⇔新高山城(山の城)

◆おわりに

- ・毛利、吉川、小早川 3 氏による山城から海城への進出 ⇒ 米子築城はこうした海への進出抜きに語ることはできない【広島城と米子城は朝鮮出兵を睨んだ築城でもあった】
- ・新発見の登り石垣 ⇒ 本丸から内膳丸までを一体化(本丸から二の丸に延びる豎堀)【二の丸(居館)を両側より防御する施設】
海から臨んだ景観 ⇒ 山頂から山麓に向かって伸びる壮大な石垣【見せる城】
- ・今後の保存、整備、活用に大いに期待 ⇒ 市民に愛される城跡に！【城跡はまちの誇り】

左下貼紙
 一 附紙無之所は近年御繕宜敷候。
 一 矢引は道筋也。
 一 屋筋無キ分は不殘瓦屋筋也。
 一 ひがき之處は小藪也。
 一 飯山は前より石合斗ニ候由。

米子城の平面図で、城内の各施設が細かく記載されている。二丸部分に「荒尾河内屋敷」と記載がある。米子荒尾家の内で「河内」を名乗るのは、5代大和成昭のみで、しかも「河内」を称した期間は元文4年(1739)2月2日から9月27日までのわずか期間である。したがって、本図の成立年代は、荒尾成昭が河内と称していた元文4年と考えてよい。

本丸部分に四重櫓が見えず、五重天守のみが描かれるが、この部分は貼紙で、その下には石垣の輪郭のみが記されている。したがって、作製当初の意図は石垣の規模を把握することにあつたと思われる。この時期に四重櫓が失われたという記録はないため、当然二つの櫓は存在していたはずである。おそらく、四重櫓を描いた貼紙が後に失われて現在のような図になったと考えられる。

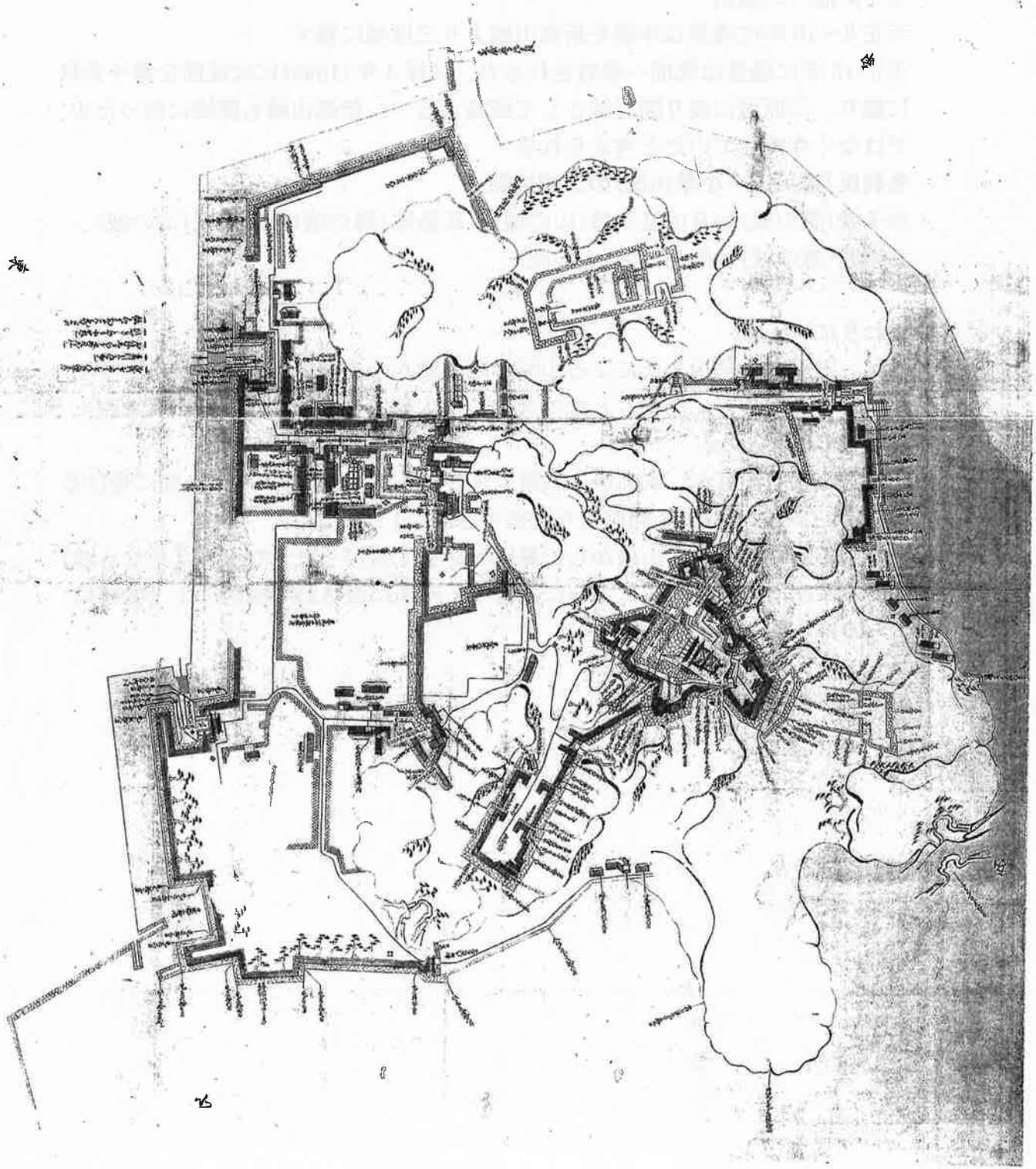


図1 米子御城明細図(元文4年：1739)

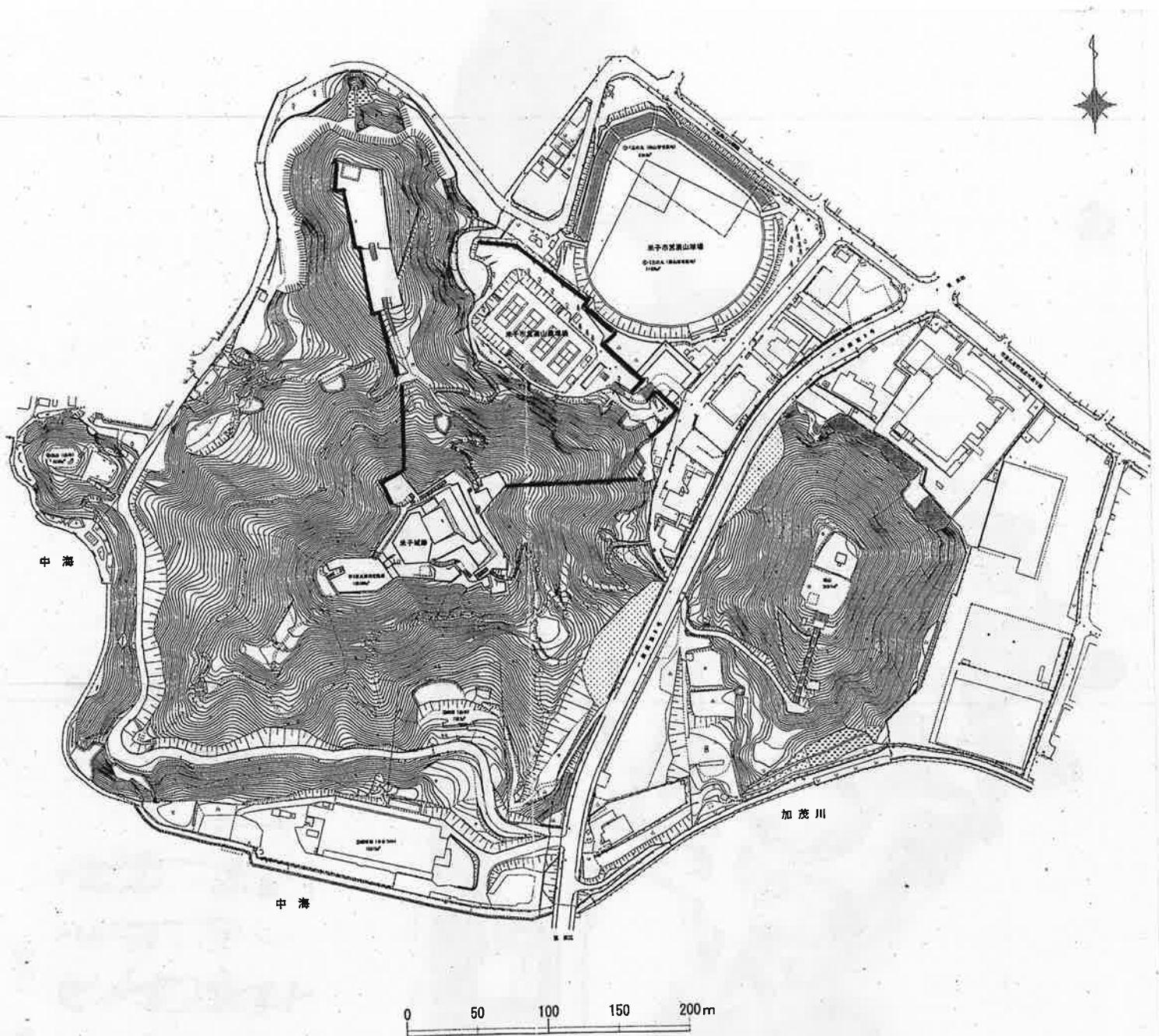
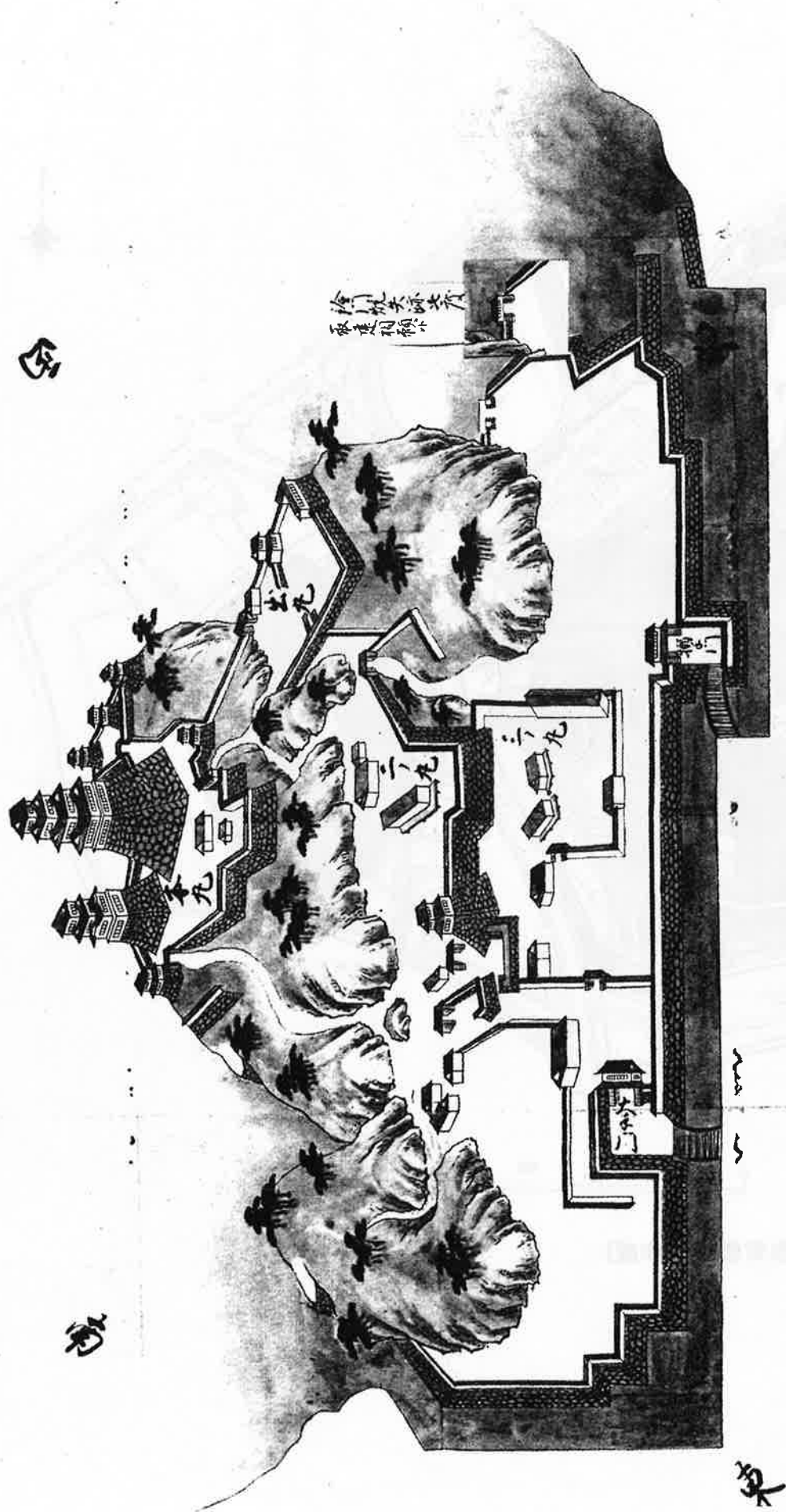


図2 米子城跡測量図(米子市教育委員会作成)



伯耆國米子城
 一、繪圖所據
 二、繪圖所據
 三、繪圖所據
 四、繪圖所據
 五、繪圖所據
 六、繪圖所據
 七、繪圖所據
 八、繪圖所據
 九、繪圖所據
 十、繪圖所據

圖3 米子城繪圖(文久3年:1863)



図4 富田城縄張り図(『国指定史跡富田城跡保存活用計画報告書』)



図5 広島城絵図(「正保城絵図」)

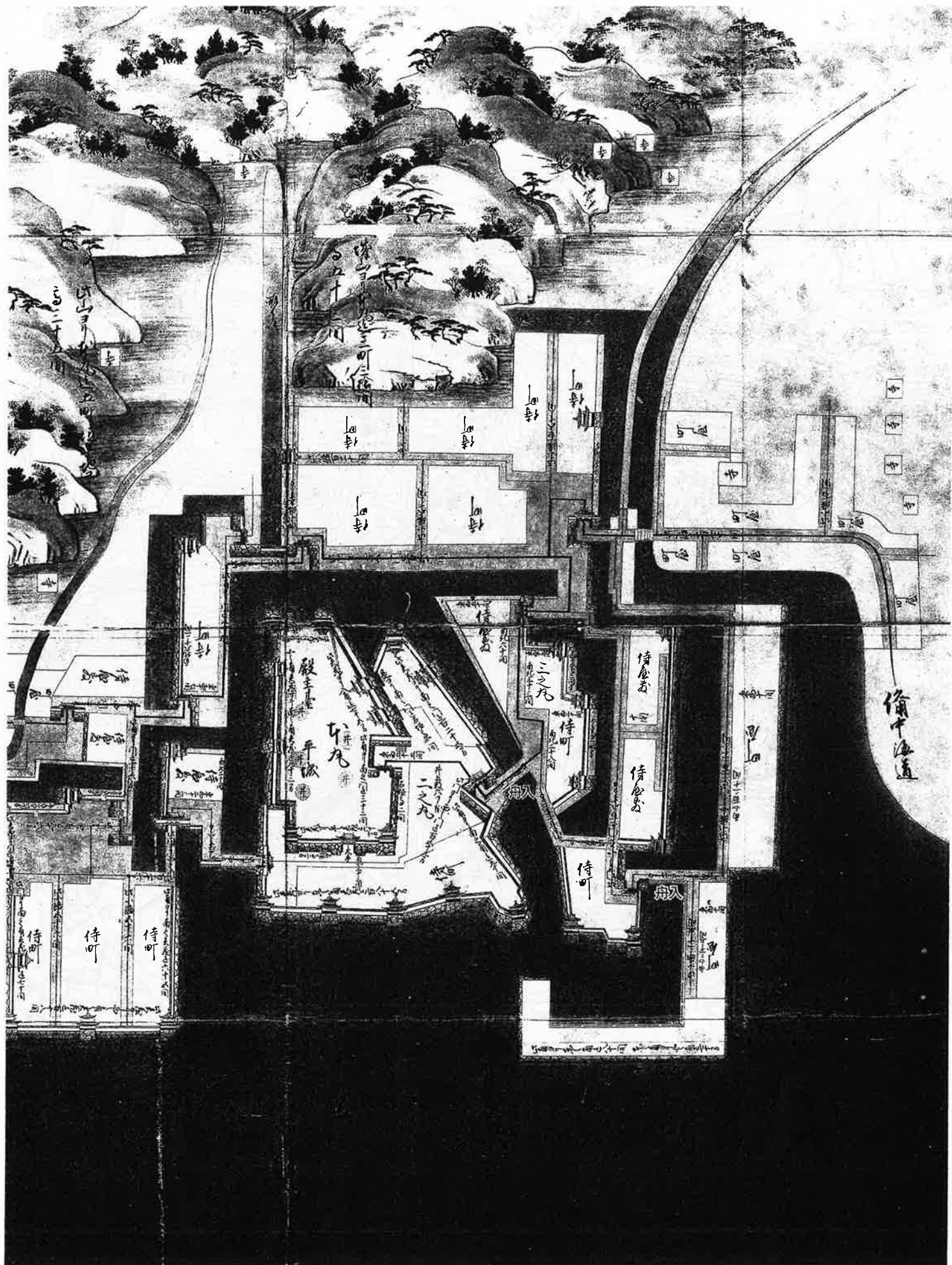


図7 三原城絵図(「正保城絵図」)

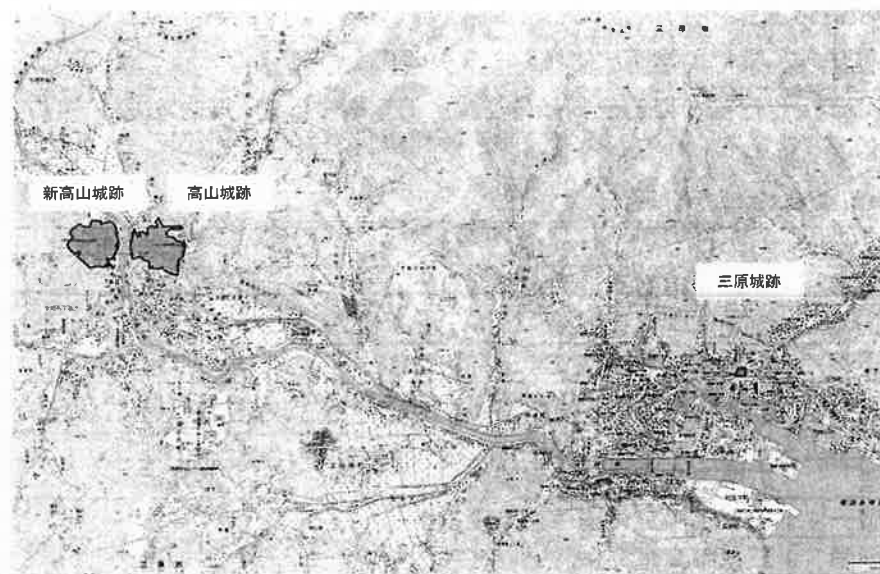


図8 小早川氏城跡分布図(『史跡小早川氏城跡保存管理計画書』)

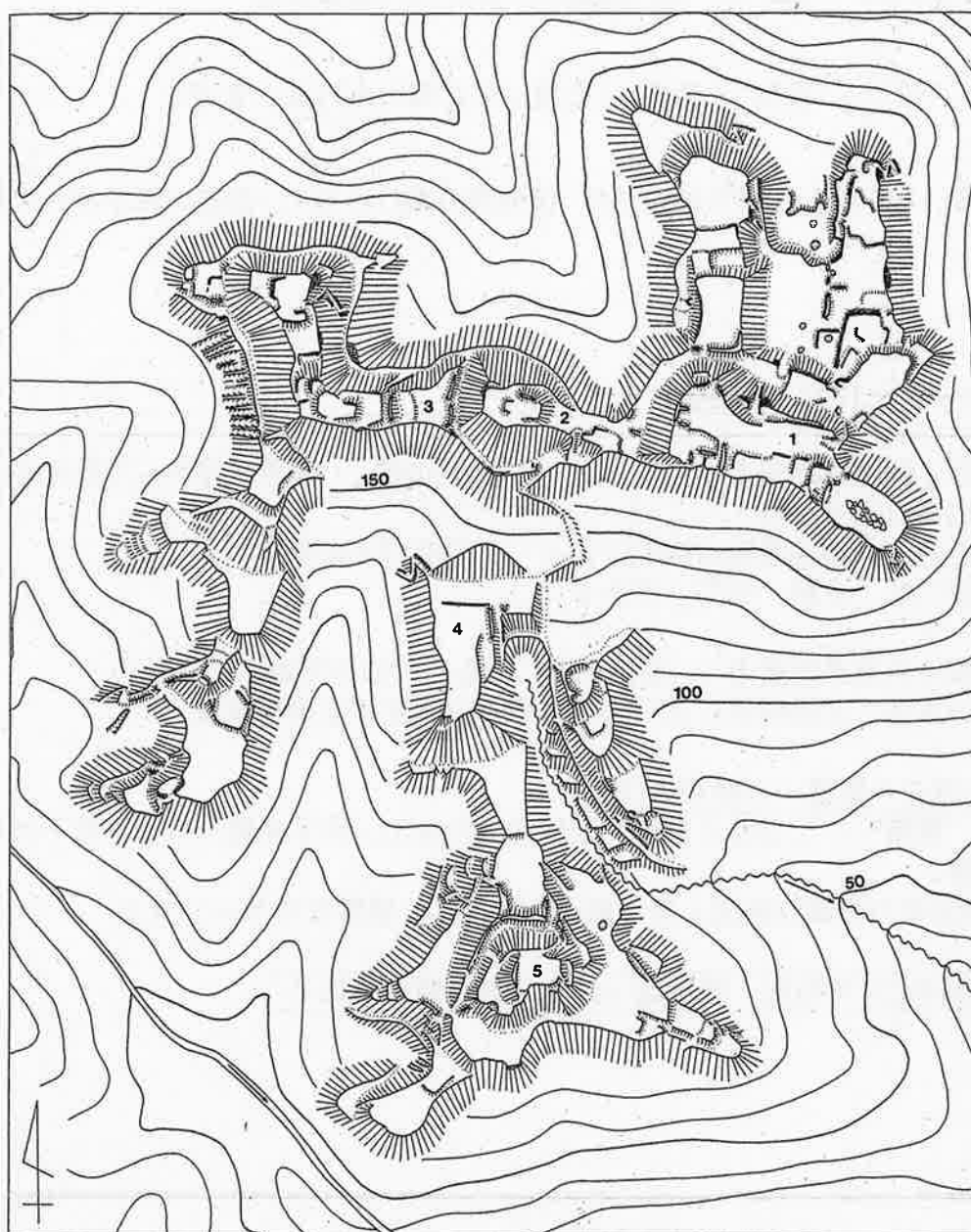


図9 新高山城跡略測図(『史跡小早川氏城跡保存管理計画書』)

「3 番勝負！ここがすごいぞ米子城」

萩原さちこ（城郭ライター・編集者）

◆はじめに

* 城めぐりの楽しみとは？

「天守＝城」ではない！城とは、広大な敷地に築かれた複合施設。

「軍事的工夫」「設計」「役割」「変遷」「石垣」など楽しみ方はさまざま。

城は、2つと同じものがない個性的なもの。自分流の楽しみ方で、自由に城を歩きましょう！

◆3 番勝負 キーワード① 「眺望」

- ・ 竹田城（兵庫県朝来市）… 幻想的な「天空の城」。雲海に浮かんで見えるのは独立した山塊にあるから。
但馬と丹波の国境警備の拠点であり、播磨侵攻の出撃拠点。
→ 城には「役割・目的」がある
- ・ 姫路城（兵庫県姫路市）… 徳川家康による「大坂包囲網」のひとつ。
家康の娘婿・池田輝政により築城された絢爛豪華な軍事要塞。
- ・ 米子城の「眺望」の特長とは？
海を“意識”した立地と選地。国境警備の強化。城下を見下ろせ、城下からの景観も見事。
→ 築城者の軍事的意図と美意識が反映された絶妙なロケーション

3 番勝負① 竹田城・姫路城 vs. 米子城 勝つのは？

◆3 番勝負 キーワード② 「設計」

- ・ 丸岡城 (福井県坂井市) ... 全国に現存する 12 天守のひとつ・外堀の一部のみ残る
- ・ 宇和島城 (愛媛県宇和島市) ... 全国に現存する 12 天守のひとつ・藤堂高虎の縄張とされる
- ・ 松本城 (長野県松本城) ... 全国に現存する 12 天守のひとつ・中心部と外堀・捨堀などが残る

米子城の「設計」の特長とは？ 見どころは？

かつての大手から城の変化を想像...吉川・中村・加藤時代の城を江戸時代に拡張・改変か？

...裏御門(搦手)から裏中御門、二の丸、冠木御門(本丸裏御門)、本丸の経路か・八幡台の石垣 (吉川広家 / 天正 19 年)、水の手御門下の 2 段の曲輪と石垣 (吉川広家 / 慶長 5 年直前) が発見

...古絵図では色がない部分 (近世に使われていない曲輪) と合致・城割の時期や目的は？

三方向にのびる石塁・中海からの敵の侵入を防ぐ堤防のような構造
全国でも珍しい長大な“登り石垣”(吉川広家 / 慶長 5 年直前) を発掘...日本一といえる登り石垣が出現！

- 古絵図で歩ける全国的にも希有な城
- 城歩きの醍醐味のひとつ・変遷も存分に楽しめる
- 町割も残り城から確認できる

3 番勝負 丸岡城・宇和島城・松本城 vs. 米子城 勝つのは？

◆3 番勝負 キーワード③ 「石垣」

- ・ 江戸城 (東京都千代田区) ... 天下普請で築かれた日本一の石垣
- ・ 姫路城...慶長 6 年 (1601) に築城開始
- ・ 松江城 (島根県松江市) ... 慶長 12 年 (1607) に築城開始・堀尾吉晴が月山富田城から移り新築
- ・ 金沢城 (石川県金沢市) ... 「石垣の博物館」とよばれる多種多様な石垣が魅力

米子城の「石垣」の特長とは？ 見どころは？

さまざまな時期の石垣が残る

...吉川時代、中村時代、幕末、近代 etc 表情を見るだけでも楽しい

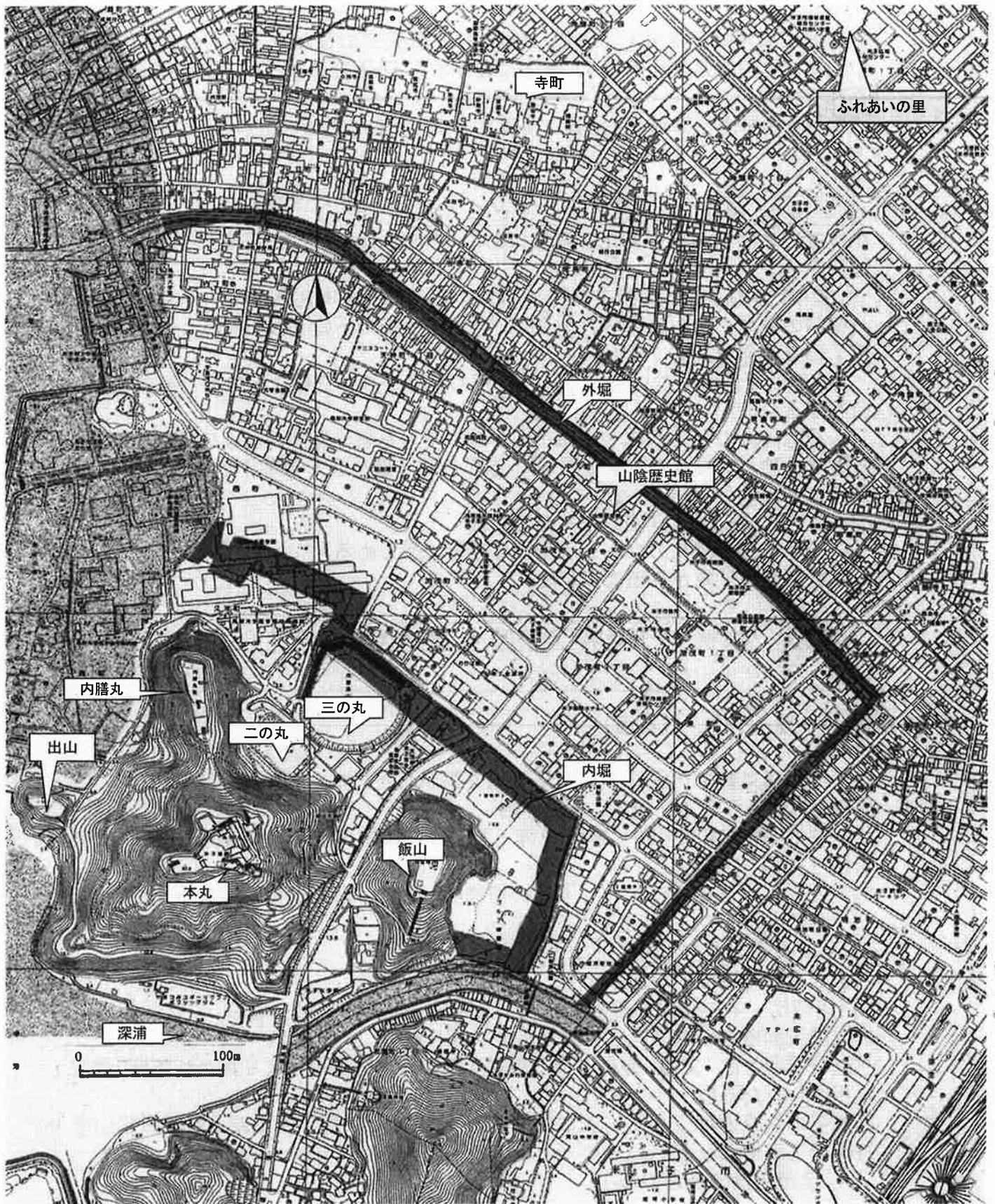
本丸遠見御櫓から内膳丸へと続く長大な登り石垣

* 登り石垣とは、文禄・慶長の役で朝鮮半島南岸に秀吉軍により築かれた城(倭城) に用いられた石垣・

日本での残存例は少なく、洲本城 (兵庫県洲本市)、伊予松山城 (愛媛県松山市)、竹田城、彦根城など・

→ 全国屈指の石垣の城！

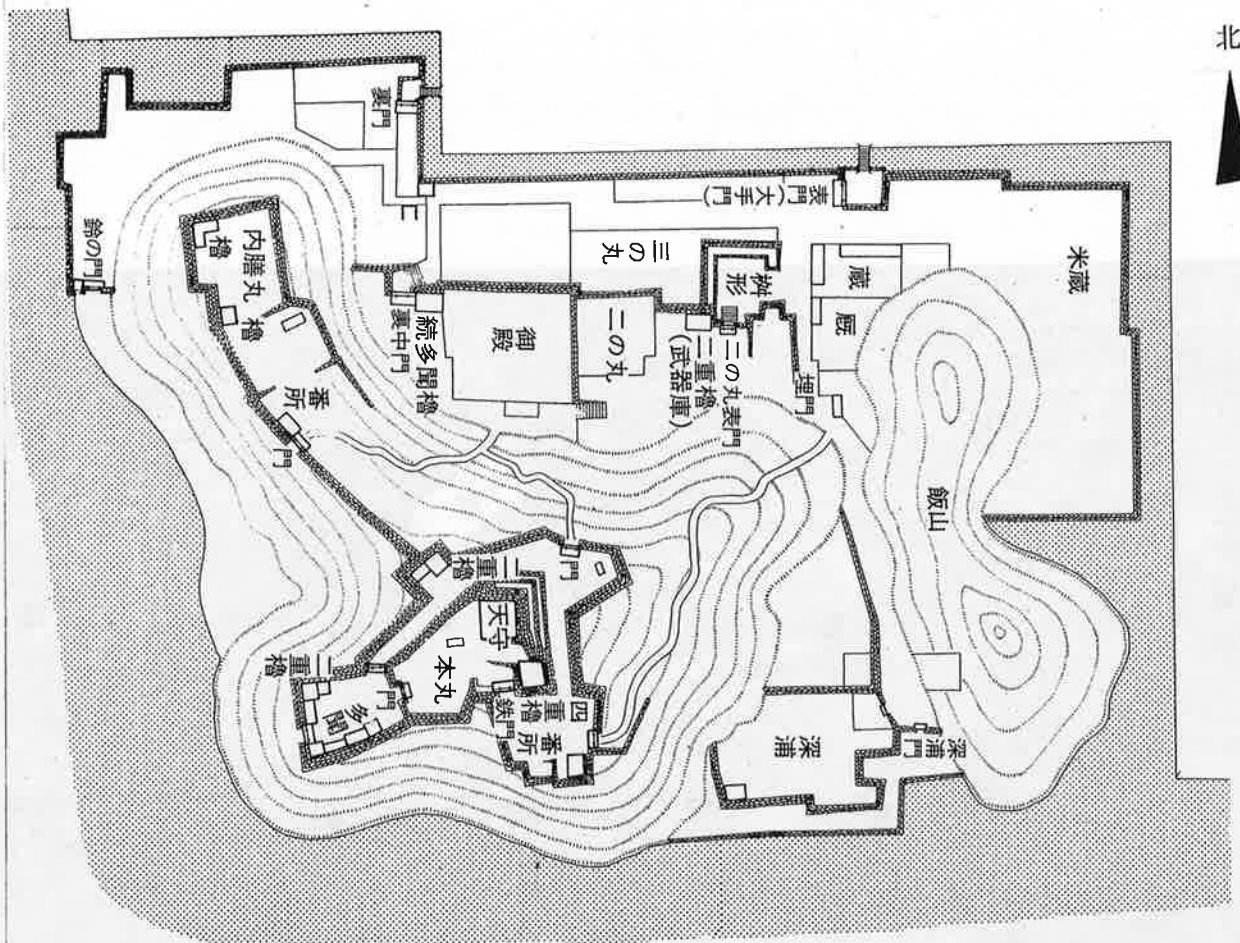
3 番勝負 江戸城・姫路城・松江城・金沢城 vs. 米子城 勝つのは？



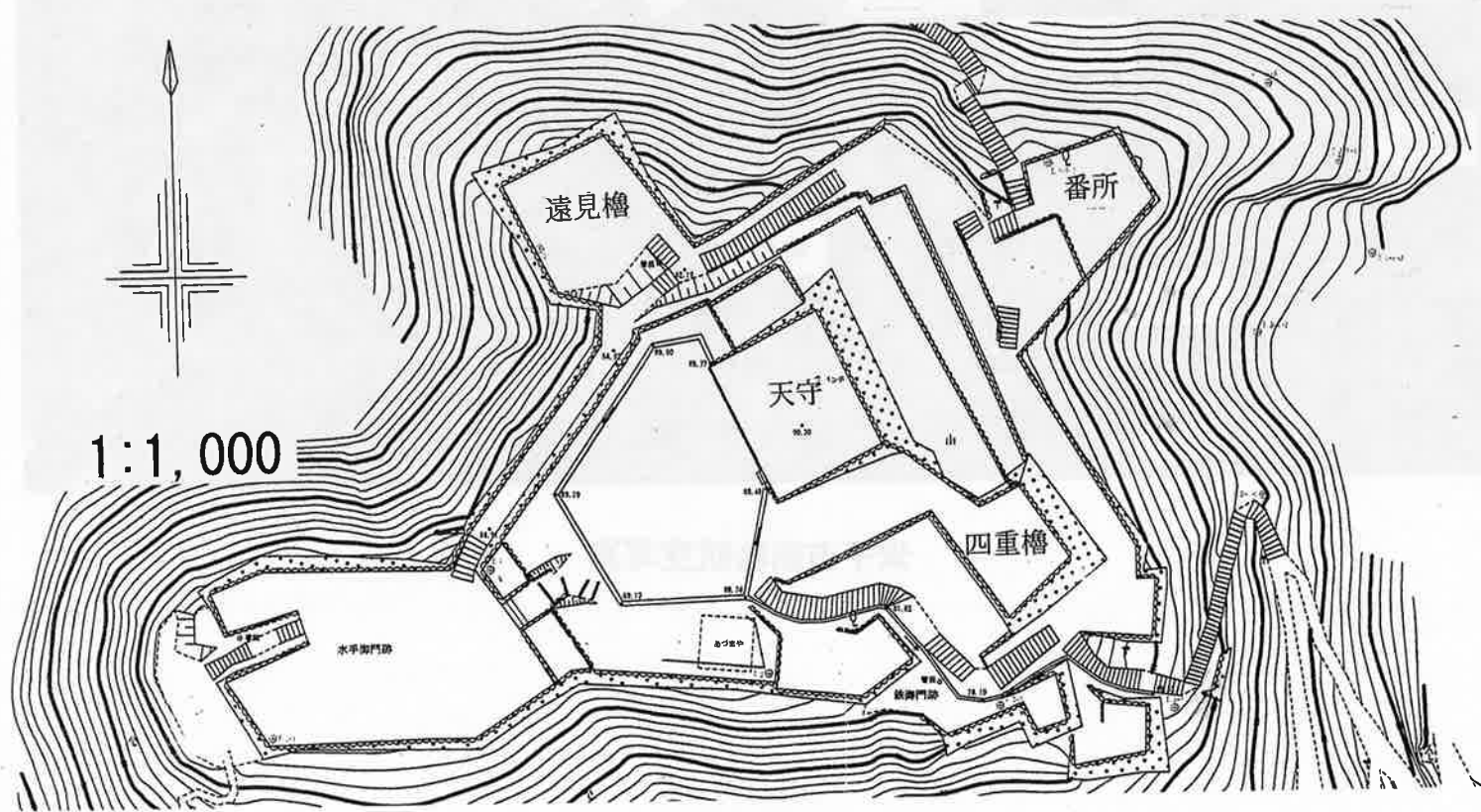
米子市街地図



米子市街地航空写真



米子城縄張図



米子城本丸

米子城関連年表

米子は1467年応仁の乱の時に砦が築かれる以前に漁師町あるいは港町として成立していました。

- 応仁1年(1467)～ 応仁の乱 米子飯山に山名宗幸が砦を築く。
- 大永4年(1524) 5月 尼子経久伯耆に侵入 米子城、淀江、尾高などの城を攻め落とす。
- 永禄5年(1562) 毛利元就の富田城攻め、因幡、伯耆へも進出。
- 永禄9年(1566) 富田城陥落。山陰地域は毛利支配下に入る。
- 元亀2年(1571) 尼子氏再興運動、尼子勝久・山中幸盛因幡・伯耆へ侵攻。
- 天正6年(1578) 尼子勝久上月城で自刃 尼子氏滅ぶ。この頃の米子城番は古曳吉種。
- 天正9年(1581) 鳥取城落城、秀吉が伯耆一円を支配。
- 天正13年(1585) 秀吉と毛利輝元の和睦 八橋以西の伯耆三郡が毛利領となる。
- 天正15年(1587) 吉川広家(吉川元春の三男)、吉川家の家督を継承。
- 天正19年(1591) 吉川広家が秀吉から西伯耆、出雲、備後など12万石を認知され、富田城に入るが、居城を米子に変え、山県九左衛門を奉行として築城開始。
- 文禄1～慶長3年(1592～1598) 文禄慶長の役(朝鮮出兵) 吉川広家従軍、古曳吉種は朝鮮で討ち死(1592)。慶長3年8月、秀吉死す。
吉川広家、富田城に帰り、湊山築城を監督、米子港、深浦港整備。
- 慶長5年(1600) 関ヶ原合戦 吉川広家西軍として出陣
吉川広家、周防国岩国(3万石)に転封、この頃城は7割方完成。
駿河国府中城主、中村一忠(18万石)が伯耆国領主となり尾高城に入る。
- 慶長7年(1602) 中村一忠、尾高城から完成した米子城に移る。
- 慶長8年(1603) 中村一忠、家老の横田内膳を暗殺(米子城騒動)。
- 慶長14年(1609) 中村一忠20歳にて死、中村家は断絶。
- 慶長15年(1610) 岐阜美濃国黒野城主加藤貞泰、伯耆国会見・汗入郡6万石領主となり入国する。
- 元和1年(1615) 大坂夏の陣、豊臣氏滅ぶ。幕府は一国一城令を発布するも、米子城は保存と決まる。
- 元和3年(1617) 加藤貞泰、伊予国大洲に転封、
因伯領主となった池田光政の一族、池田由之が米子城預かり(3万2千石)となる。
- 元和4年(1618) 池田由之死亡、子由成が米子城主となる。
- 寛永9年(1632) 池田光仲、因伯支配(32万石)、家老荒尾成利が米子城預かりとなる。
- 嘉永5年(1852) 四重櫓と石垣を鹿島家の負担により大修理。
- 慶応4年(1868) 明治維新。
- 明治2年(1869) 朝廷より米子城返上の命令あり。
- 明治5年(1872) 米子城山は士族小倉直人らに払い下げとなる。
- 明治6年(1873) 城内の建物類は売却され、数年後取りこぼされる。

かるちゃんのちょこっとお城の用語解説



海城（うみじろ）

城の周囲が海・湖などに面している水域の中で、特に海に面しているもの。

大手門（おおてもん）

城の表口に建つ門。通常は二の丸や三の丸の正門。

搦手門（からめてもん）

城の裏口に建つ門。

郭（くるわ）（曲輪）

城の内外を土塁、石垣、堀などで区画した区域の名称。本丸、二の丸、三の丸など主要な廓内には、城主の居所のほか、兵糧を備蓄する蔵、兵たちの詰所などのほか、郭の出入り口である虎口を閉める門や、塀、物見や攻撃を与える櫓（やぐら）が建てられた。

鉄門（くろがねもん）

門扉や柱に細長い鉄板をすき間なく貼った門。少し間隔をあけて、筋状に鉄板を貼った鉄筋門もあり、これを鉄門と称した城もある。

虎口（こぐち）

城の出入り口、小さな入口に作り敵の侵入を防いだことから、はじめは「小口」と書いたが、後に「虎口」と書かれるようになった。

御殿（ごてん）

政庁の場所でもあり、城主とその家族の住まいでもある建物。公的な空間である「表御殿」と、私的な空間である「奥御殿」がある。

侍町（さむらいまち）

城下町において、城主の家臣（侍）の住居から構成されたまち、侍屋敷地とも言う。

総構（そうかまえ）（総曲輪）

城下町を、長大な堀や土塁・石垣で取り囲み、大規模な郭としたもの。近世期には政治の拠点である本丸、二の丸、三の丸など城の主要な部分（内郭）から、さらにもう一重外側に防御線を設けられるようになった。これが総構である。総構の堀は総堀（惣堀）と言うが、外堀と言われることが多い。

本丸、二の丸、三の丸（ほんまる、にのまる、さんのまる）

近世では城の中心となる郭は本丸と呼ばれ、本丸に天守が設けられることが多かった。二の丸、三の丸といった呼称は、本丸からの位置関係によるもの。

豎堀（たてぼり）

敵の横方向の移動を防ぐため山の斜面と平行に縦（豎）に掘られた空堀のこと。

町人地（ちょうにんち）

城下町において、商工業者（町人）たちの住居・店からなる町。町屋敷地とも言う。



伯耆国米子城絵図

（文久3〔1863〕年9月）

寺町（てらまち）

城下町において、寺院を集中的に配置した地域。防御の役目も果たす。

天守（てんしゅ）

城の中心に建てられた高層の櫓。「天守閣」は俗称。

出丸（でまる）

城の守備が脆弱な箇所の補強や物見などの目的で作られた補佐的用途を持つ曲輪。

土塁（どるい）、石垣（いしがき）

敵の攻撃、侵入を防ぐために、城の外周や郭の周囲に土を持って固めた施設のこと。

近世城郭では土塁に代わり、土塁壁面に石を積み上げた石垣が主流となる。

縄張（なわばり）

城の曲輪や堀、門、虎口等の配置をいう。城郭での戦いの勝敗を決める要素の一つに、城郭の形状・構造が挙げられる。そのため築城に際してなるべく防御側に有利になるよう、城郭の立地なども考慮して縄張が決められ曲輪が配置された。縄張の基本は城郭の核となる本丸の周囲に、二の丸、三の丸を効果的に配置することにある。

枡形（ますがた）

四角形の小さな広場のこと。

枡形虎口（ますがたこぐち）

枡形と2つの城門を組み合わせた二重構造の出入り口のこと。敵の直進を防ぐために直角に折れ曲がっている。敷地から飛び出すように築かれたものを**外枡形**、敷地内に取り込まれたものを**内枡形**という。

町割（まちわり）

城下町において城下全体を軍事的、政治的、経済的中心とするために城を中心として、侍町、町人地、寺町を計画的に配置した構造のこと。

堀（ほり）

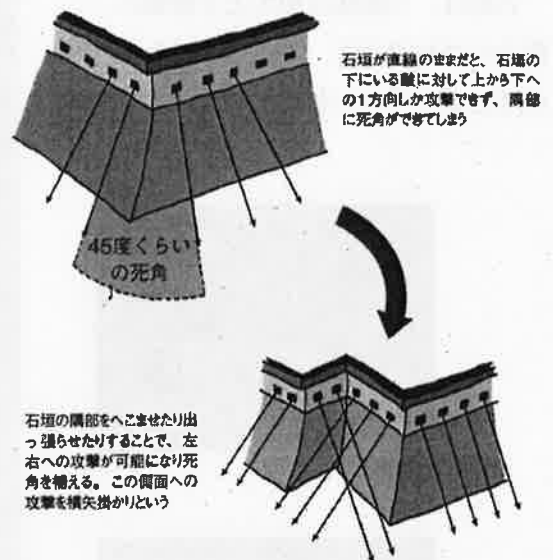
敵の進撃をはばむための人工的な大溝で、水のない堀を「空堀」、水のあるものを「水堀」と呼ぶ。

櫓（やぐら）

主に郭の隅などに築かれた建物で、監視や攻撃の拠点としての役目を持つ。近世城郭では単層の平櫓、二重以上の櫓、長屋のような多門（多聞）櫓など多様化し、天守の代用となる櫓もあった。

横矢（よこや）

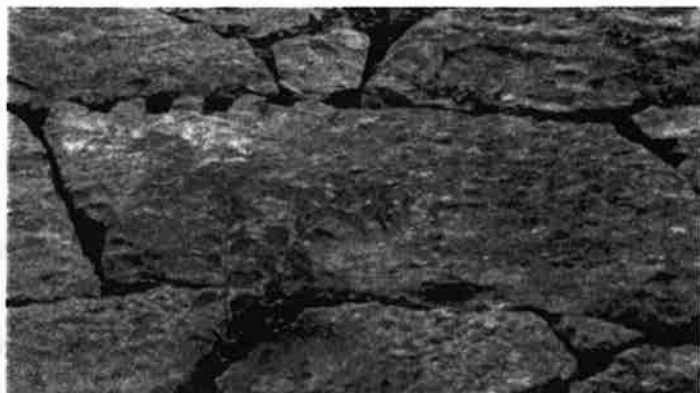
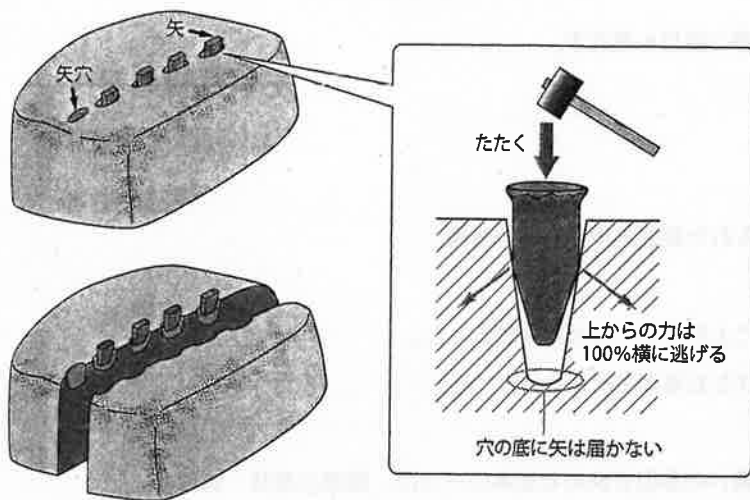
正面と側面など二方向からの攻撃のこと。横矢を構えることを横矢掛（よこやがかり）と呼び、石垣を直線的ではなく途中で折れ曲げ、横矢がかけられるようにすることが城の防御の最大の基本とされた。



石垣を複雑に折り曲げることで城壁全体にくまなく横矢が掛かり、防御力が上がる

やあな
矢穴：石材を割り出す時に矢（鉄クサビ）を入れるためにノミで開けた穴。

矢穴技法の原理



佐藤亜聖 2015「日本中世における砕石技術の展開と東アジアの砕石技術」『第1回中世砕石・加工技術研究会発表資料集』

四重櫓石垣に見られる矢穴

石垣の加工と積み方

石垣は、3種類の加工と2種類の積み方に大別でき、これらを組み合わせた6パターンが基本。



亀甲積



落積

	乱積	布積
野面積	 ほぼ加工していない天然の石をそのまま積む	 ほぼ加工していない天然の石を横に目地が通るよう積む
打込接	 打ち砕いて表面を平らに整えた石を積み、隙間に小石を詰める	 打ち砕いて表面を平らにした石を、横に目地が通るよう積む
切込接	 完全に加工した大きさや形の異なる石をパズルのように隙間なく積む	 完全に加工した大きさや形の異なる石を横に目地を通しながら隙間なく積む



八幡台で検出された石垣



水手御門下で検出された郭



登り石垣（御門付近）



登り石垣



二の丸の高石垣



二の丸裏御門付近の高石垣



旧加茂川（外堀）



深浦

